

資料 2 - 3

「令和 7 年度介護予防・日常生活支援総合事業、生活支援体制整備事業等の推進に係る自治体セミナー及び東海北陸管内 6 県意見交換会」
(令和 7 年 6 月 1 1 日)

白川町の生活支援体制整備の在り方を 関係者で検討して

～ 住民と共に、支え合いの輪を広げる ～



茶絵右工門(ちゃきえもん)

岐阜県白川町役場
保健福祉課総合相談係
地域包括支援センター

岐阜県白川町の概要

●基礎情報

①総人口	7,029人
②高齢者人口	3,402人
高齢化率	48.4%
③認定率	19.6%
④調整済み認定率	15.3%
⑤第9期介護保険料	5,500円

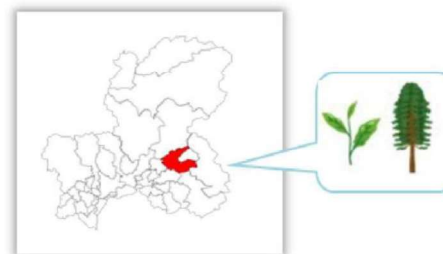
出典：①②住民基本台帳(令和6年1月1日)

③④⑤介護保険事業状況報告を基に算出・2024年

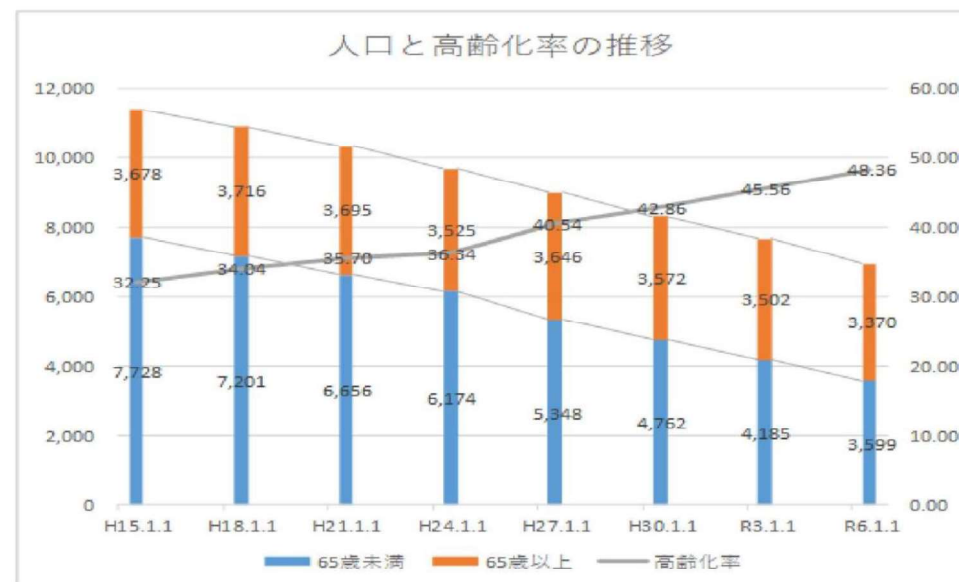
●人口推移

	2020	2025	2040
総人口	7412人	6515人	4305人
高齢者数	3471人	3305人	2592人
高齢化率	46.8%	50.7%	60.2%
後期高齢化率	27.3%	31.0%	42.0%
高齢化率(全国平均)	28.0%	29.6%	34.8%

出典：2020年は国勢調査、2025・2040年は社人研推計（2023国調）



保健福祉課総合相談係 地域包括支援センター(直営1か所)
生活支援体制整備事業は、第2層生活支援コーディネーター2名
社会福祉協議会に委託



行政(地域包括支援センター)のもやもや

理想 現実

- 担い手として参加する の共有化が不足している。
住民主体の活動をすすめる
めたい！
解が得られにくい状況にある。
- SCの活動評価が不明確で、目的
- 町や社協上層部、議会などへ理解が得られにくい状況にある。
- 町社協に事業を委託しているが、
具体的な指針がなく、進捗状況や
感じられるものにしたい！ ニーズの把握ができていない。
- SCに事業外の業務負担がかかっており、他の地域支援事業との連携が薄い。



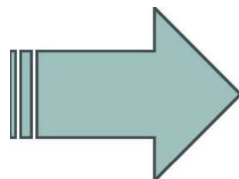
何のための事業であるか理解する前段階で、迷走状態…

生活支援コーディネーターのもやもや



理想

「住民主体の協議体」



現実

- 協議体設立に目がいき、参加人数や目にみえる成果を期待される。
- 協議体の方向性が、どこに向かっているか、S C自身にも協議体メンバーにも浸透しておらず、着地点が見えない印象を与えている。
- 社協職員として、地域福祉活動とSCの活動の境目や立ち位置が分かりづらい。自分達の日々の活動の評価がうまくできていない。



プレッシャー

地域づくり加速化事業を通して実現したいこと・・・

- ① 生活支援体制整備事業の位置づけと方向性を明確にして、具体的な方針を示したい。
- ② 行政と社協、S Cが共通認識を持ち、戦略をたてて取り組みたい。
- ③ S Cの活動を本来の役割に戻し、やりがいを感じられるようにしたい。

●0.5mgミーティングで、心に残ったアドバイザーの助言...

「sc自身が、地域に出る楽しさ、やりがいを感じられているかな...」

「地域のことは地域住民に聞く」「住民にお願いしない」「scがひっぱらない」



第1回目支援(令和6年9月18日)



1. あるべき姿のプロセス
2. 協議体の「北極星」を決める

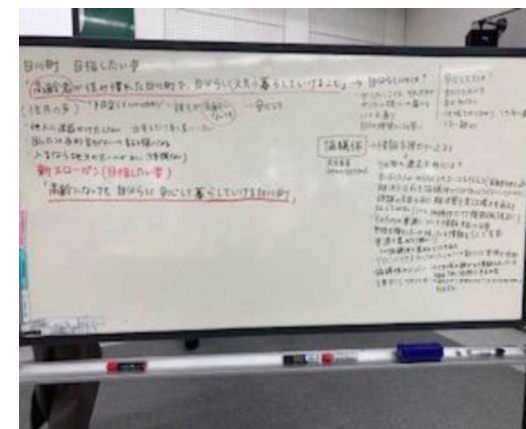
目指す姿(北極星)を行政、社協、SCで統一する

3. 理想の協議体とは？…白川町の協議体を考える

4. ニーズの把握

行政と社協間で、出来ていなかった目指す姿・ビジョン
(北極星)のすり合わせができた。

行政と社協間で、事業目的・意義など共有し、行政が
「腑に落ちた」ことで、方向性が定まった。



第1回目支援後…



- ・少し霧は晴れた…でも、現実的にどこから手をついたら進めるのか…と現実逃避

- ・そんな時に、アドバイザー澤先生からの✉が届く

「困っていませんか？」（…はい、実は困っています）

「scは腑におちているかな？まずはscと直接、話してみよう」



(見守ってくれている…°+◇ ˘(°▽°)˘ ◇+感動)

- ・「よし、動かなきゃ！今の自分達に、できることから取り掛かろう！」



包括、scで空き時間をみつけて、話し合いが何度も行われる。
今の協議体を、仕切り直すには、どうしたらいいかな。

第2回目支援に向けた動き…

SCから
11日協議体の進行を提案



SC: 10年後、黒川地区を
どのような地域にしたいか？
皆さんで取り組めることは何？

「住み続けたい」「元気」「人を育む」
テーマごとに10年後に「実現」「解消」
してほしいことを話し合い、その後席替
えをして意見を深め、重要と思う意見を
3つほど出して… あれれ・・・？



町: 今回の協議体では、まずは
北極星を決めるための意見出しを
重視してもいいよね！

町: このやり方だと今まで開催して
いる福祉計画立案のための座談会と
同じ。町への要望ばかりになるかも

町: 公的な部分のことよりも
地域住民ができることを考えるのが
協議体なのでは？

SC: 協議体の意義は行政から
説明してもらえると説得力が
ある。進行はSCでやります！

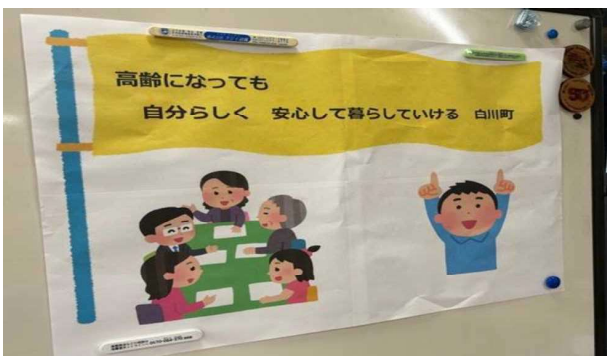
決定事項: 黒川地区をモデルに、住民の腑に落とすことを目的にして、仕切り直しの協議体を開催しよう！

行政とSCの関係が深まり、
お互いに様々な意見が自由に
出せるようになった！！

事業について理解でき、北極星を
決める作業の中で何を目指すのか
が見えた！！

戸惑うSCに対して、町が助言が
できるようになった！！

黒川地区協議体 1 回目(令和6年11月11日)



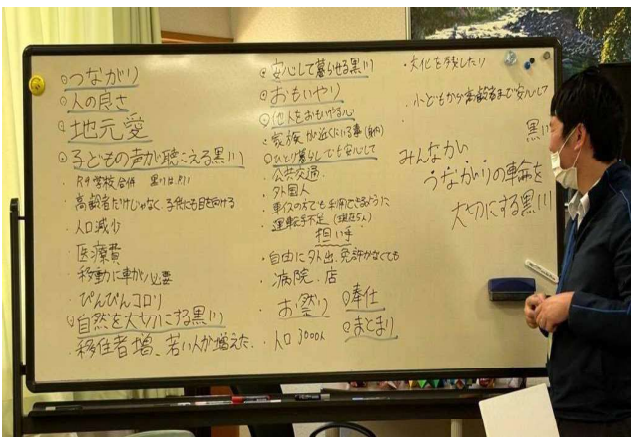
町の北極星★を掲示し、1つ1つの言葉に込めた思いを説明する



「みんな」には
「世代、移住者、国籍、
血縁の有無を問わず」と
いう意味があります

『みんなかい
うなかいりの輪を
大切にする黒川』

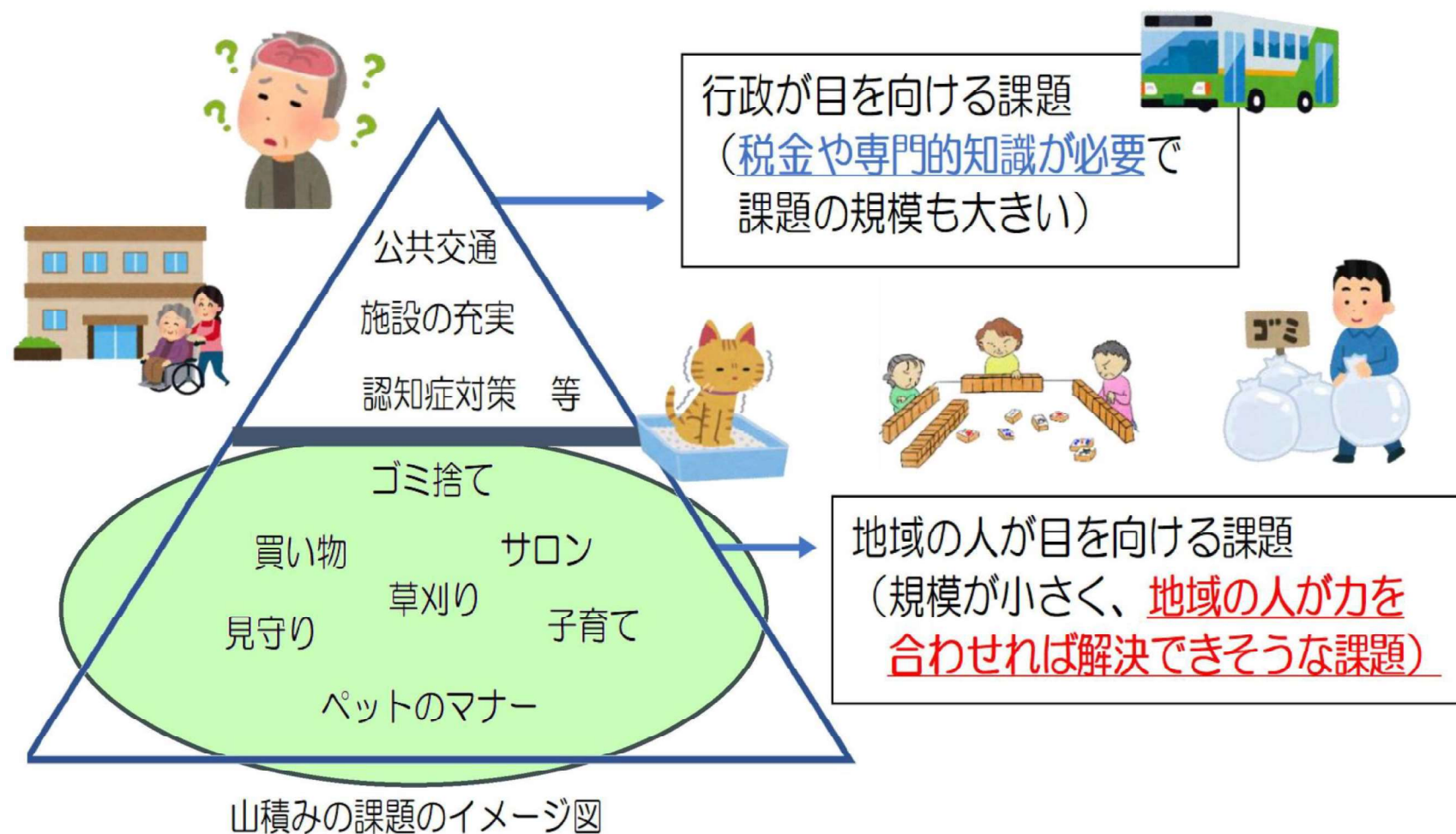
黒川地区の北極星★を皆で決める！



「黒川に住み続けられるために
こうなったらいいな」という
キーワードを簡単な言葉で
一つずつ記入して発表しましょう

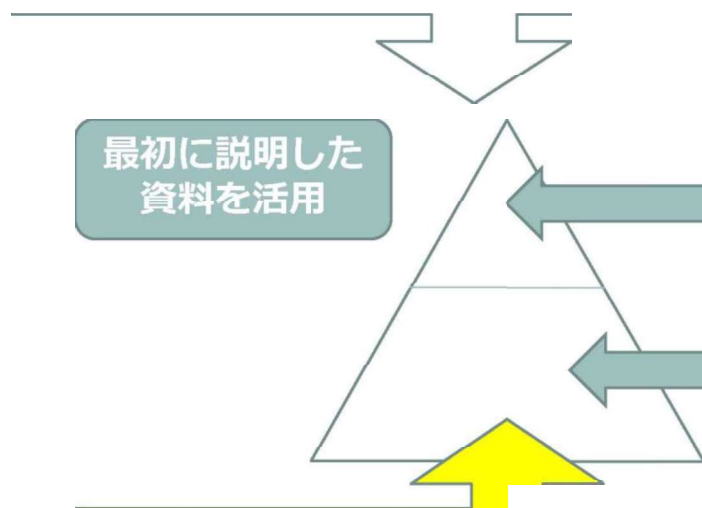
**住民主体の視点を持ちながら進
行することの難しさも感じつつ、
S Cの動きに迷いがなくなった！**

解決できそうな課題とは…



行政が目を向ける課題

税金や専門知識が必要で
課題の規模も大きい
公共交通、施設の充実、認知症対策 など



地域の人が目を向ける問題

見守りや草刈り、買い物や集う場のように
皆さんの情報とアイディアや知恵、
工夫で解決できそうな小規模のもの
ごみ捨て、買い物、草刈り、見守り など



皆さんの意見には
△の上の部分と下の部分があって

上の部分は、住民の力でというよりは
行政などの力が必要ですね...

下の部分を地域の力で
なんとかできたらな、と
思うのですが...

...うん、これくらいなら
できるかもしれない...



地域で知っている事と知らない事がある！

黒川にも移動販売が来とるぞ

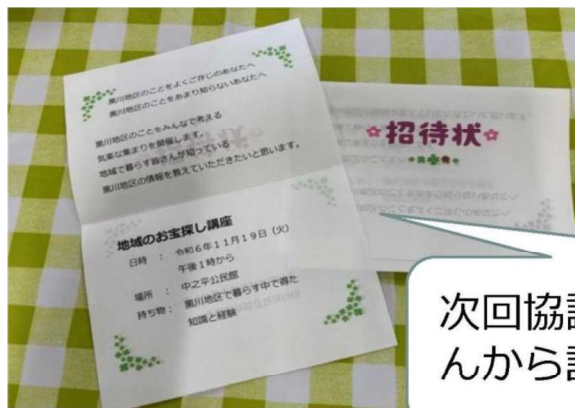
〇〇地区から△△地区に回るで
最後の□□では商品が残っとらんらしいぞ

そんなもん、うちの方では
見たことないぞ

どっから来とるよ？

注文したら持ってきて
くれるらしいよ

そんなもんがあるのか、
知らなかった！



次回協賛体の案内を招待状形式にし、皆さんから誘って来てもらうようお願いした！

SC: そういう話！！聞きたいです！
2回目19日の時に教えてもらえませんか

第2回目支援(令和7年1月30日)

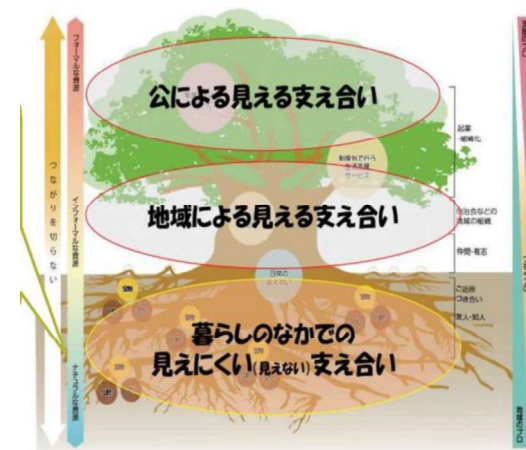
午前 第1回目の協議体報告(11月12日)

午後 協議体「やってみよう！地域のお宝さがし」

- ・地域にある「つながり」の大切さについて(宇城アドバイザー)
- ・生活支援体制整備事業について(澤アドバイザー)



潜在的で無意識に行っている
何気ない日常の支えあいや
つながりを見える化する。
(地域のお宝さがし)



黒川地区協議体 2回目



木の根っこの部分(普段からの
支えあい)がいっぱいある！
元気なうちからのお互い様は
大事なんやな...

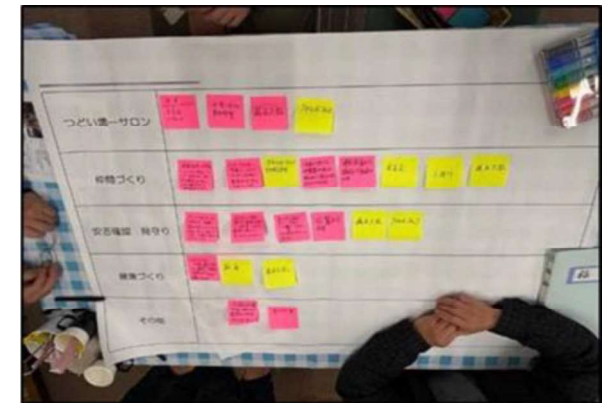
地域のお宝さがしグループワーク
自分や周囲の人の繋がりに気づき、
意味づけをする

- ・ 地域にある「つながり」について
(宇城アドバイザー)
- ・ 生活支援体制整備事業について
(澤アドバイザー)

男性中心に車屋店舗でコーヒー会
定期的なやってるよ☕



地域のつながりについて、共有する
(発表)



第3回目支援に向けての動き

・2.5mtgで出されたロジックモデル課題

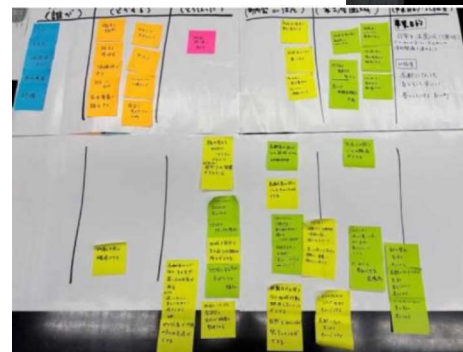
SCと一緒に、北極星を意識しながら
「生活支援体制整備事業」に関する整理
想いを付箋紙に貼り、分類する

・協議体の開催(1月24日)

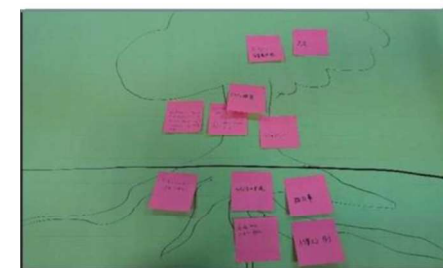
宇城アドバイザーの2回目支援の進行を何度も復習して再度、実践編...

普段の何気ない行動が見守りにも
繋がっているとは驚いた...

困りごとを知って、この協議体で何
をしていくか自分達で考えたいね。



若い人にも意見



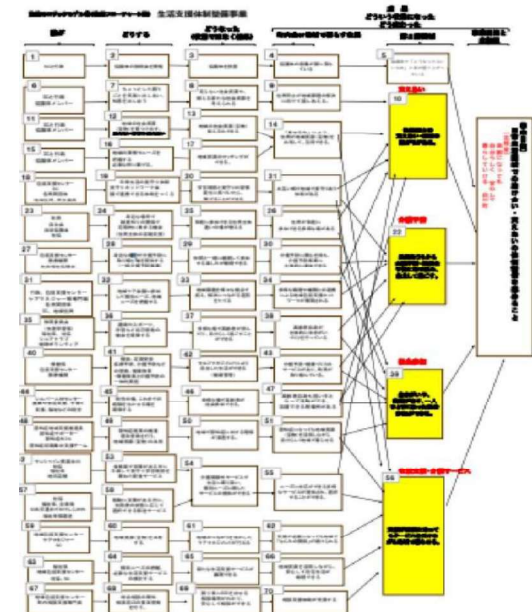
第3回目支援(令和7年1月30日)

1. 協議体の進捗状況
2. 白川町の生活支援体制整備事業(ロジックモデル)

支えあい、介護予防、社会参加、生活支援・介護サービス

3. 生活支援に向き合うために、
具体的にどうすればよいか
4. 第1層、第2層の在り方について意見交換

バックカスティングの意識をもったうえで、何を目指すかを考えて、現状分析を行う大切さ。自分達の活動が今、どの部分にあるか。



地域づくり加速化事業を通して 得られたもの

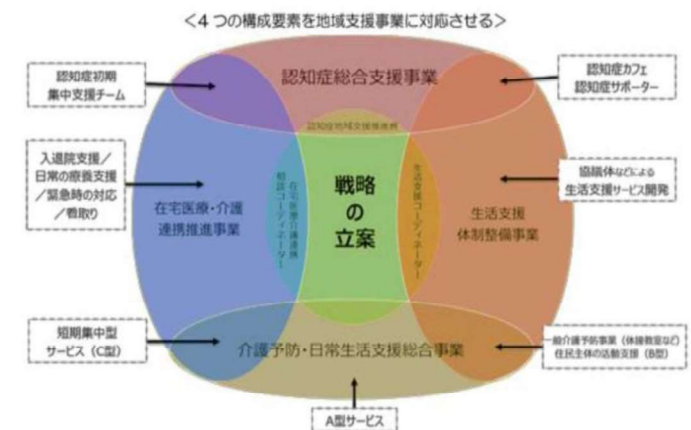


- 目の前の課題解決だけに捉われすぎず、あるべき姿(北極星)のイメージを共有することで、実現するには今、何をすべきかという意識に変化したこと。

- 本事業の位置づけを確認し、単独で動くのではなく、他の地域支援事業間の連動を意識すること。



できないことばかりに目をむけず、
できていることの大切さ、プロセスを
丁寧にみていく。



加速化事業が終わって…最近の白川町

～ 10年後、20年後を見据えて～



議員も参加



地域福社会総会場で、SCが協議体紹介と活動啓発

メンバーからの提案

移動販売はどこまでくる？増えたらいいな

若い人の意見も聞いてみたいね。どうする？

高齢者が公共交通を使いやすくするには…

横展開で他の協議体でも、再始動！！

地道な土台づくり



今後の取組…



・2層協議体の運営支援

町内の2層協議体の運営に関わるSCに対して、町として継続的にバックアップしていく



・1層協議体の機能強化

1層協議体を機能させ、町全体の課題解決に向けて、きちんとつないでいく仕組みをつくる

・行政とSCの連携強化

行政とSCの関係をさらに深め、協議体の運営をスムーズに進めるための連携を強化していく